

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：32634

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12319

研究課題名(和文)現代アメリカ文学・文化における危機・情動・身体

研究課題名(英文)Crisis, Affect and Body in Contemporary American Literature and Culture

研究代表者

ハーン小路 恭子(Hearn Shoji, Kyoko)

専修大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：30733563

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、アメリカ文学作品、および映像作品や音楽といった文化的なテキストの諸形式が、いかにさまざまな政治的、社会的、文化的な危機や日常的な生きづらさの感覚と結びついているかを検討し、主として20世紀半ばから21世紀の現在に至るまで、文化的なテキストが形式上の刷新や実験、新たな主題群の導入を通してその時代の危機にตอบสนองしてきたことを検証した。研究成果は単著『アメリカン・クライシス 危機の時代の物語のかたち』(松柏社)として2023年3月に刊行された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題の学術的、および社会的な意義は、文学作品や映画、ミュージックビデオなどの特定の物語形式が時代によって異なることを、単なる流行として捉えるのではなく、それぞれの時代が経験してきた社会的な危機の感覚と結びつけて捉えた点である。これにより、文化的なテキストの生成を社会とはある種切り離された芸術上の試みとしてではなく、時代時代の社会的、政治的、文化的大状況にコミットして、そのなかで生み出されるものとして提示することができた。研究対象そのものはアメリカの文化であるが、他分野の研究者や一般読者に対しても、文化の諸形式と社会的な出来事を相互関連性において捉える視点を提供することができた。

研究成果の概要(英文)：My research has examined texts of American literature and popular culture (films, popular music, etc.) to see how their formal aspects are connected with social, political, and cultural crises and a everyday sense of precarity. In doing so, the research showed how these cultural texts respond to contemporary crises through their new and experimental narrative forms and subjects. The research results were published as *American Crises: Crises, Precarity and the Narrative forms* in March 2023.

研究分野：アメリカ文学・アメリカ文化研究

キーワード：アメリカ文学 アメリカ文化 危機 情動 アフリカ系アメリカ文化 南部文学 エコクリティシズム

1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的背景には、2000年代前後の人文分野全般におけるアフェクト理論の隆盛があった。アフェクトとは分節化しがたい感情や情動を意味し、その理論的基礎は、大きくは Deleuze, Guattari が発展させた Spinoza の情動概念と Sylvan Tomkins が提唱した心理学における情動概念とのふたつに分けられる。ここ 10 年ほどでふたつの底流を総合的に取り入れ、Foucault の生政治や Agamben の剥き出しの生、Negri, Hardt の帝国論など哲学・政治社会思想まで広くカバーした研究が人文研究全般において盛んに見られるようになった。本研究はそれらアフェクトの諸概念を理論的基礎として導入し、文学や文化において感情がどのように表現されているかという問題を、非言語的な情動や身体性 (corporeality)、本能的 (visceral) なものの問題に引きつけて考察することをめざした。それにより人間の感情の問題を身体へと接続し、また個人における情動や身体性を、個人を取り囲む社会や国家、政治経済体制のありようとの関連において再考しようとした。アフェクト理論のなかでもとりわけ影響が大きかったのは、日常的な危機やプレカリティの感覚を文学や文化的テクストの形式と結びつけて考察を行う Lauren Berlant の論考で、なぜある時代の文化的テクストにおいて特定のジャンルや形式が好んで用いられるのかという問題を、テクストの作り手がいかに危機をめぐる大衆の情動を掬い取って形を与えるプロセスと関連づけて考える上で重要なものであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は文学・文化の考察を通して現代社会を覆う危機やプレカリティの感覚に応答し、世界で今起きているさまざまな危機的事象（災害、政治上の、経済上の危機や停滞、環境危機、人種やジェンダーにかかわる暴力など）に対して、アクチュアルな批評的・分析的視点を提供することである。さらに伝統的な文学作品や言語表現と大衆文化や視覚文化などを横断的に分析することで、従来の文学研究とアメリカン・スタディーズ、文化研究系の研究を接続することをめざした。特に国内では、文学研究と文化研究は隣接する分野でありながら交流が少なく、研究人脈が細分化しすぎるきらいがある。本研究は文化研究系の研究者とのネットワーク構築も積極的に行い、より学際的な研究環境の整備に貢献するとともに、大衆文化の考察を通じて、一般読者も含め広く社会に訴えかけるような研究をめざした。本研究の独自性はアフェクト研究という理論的基礎に加え、研究代表者が南部文学・文化研究、マイノリティー研究や、フェミニズム、ジェンダー・スタディーズから得た知見を最大に生かした研究を提示することにあった。それによりアメリカ文化における危機の感覚が、人種、ジェンダー、階級的差異により他者化、周縁化されてきた存在とどのように結びついているのかを明確化でき、南部をはじめとする周縁文化を研究対象に盛り込むことで、しばしば抽象的な議論が展開されがちなアフェクト研究に新しい視点と歴史的・地政学的特殊性を提供できると考えた。アメリカ南部研究者の立場から、研究代表者は南部をアメリカ的危機の感覚が醸成される磁場のひとつと捉え、ハリケーン・カトリーナをはじめとした危機が描かれた文化的テクストの考察を試みた。

3. 研究の方法

本研究はアフェクト理論や環境人文学、障害学、アニマルスタディーズ、南部研究の先行研究を理論的・学問的基礎に据えて幅広く参照し、文化研究的方法論に基づいた考察を行った。分析対象となるテクストは伝統的な文学テクストにとどまらず、同時代の映画、アニメーションやミュージックビデオなども含まれており、文学・文化研究が現代のアクチュアルな問題に実効性を持って取り組むひとつの方法論を示すとともに、学術的なクオリティは担保しつつポピュラー・カルチャーのテクストを考察の対象として、詳細かつインパクトある分析を試みることアカデミアの内外に広く訴えかけるような研究を目ざした。

4. 研究成果

本研究課題は、アメリカ文学作品、および映像作品や音楽といった文化的なテクストの諸形式が、いかにさまざまな政治的、社会的、文化的な危機や日常的な生きづらさ、プレカリティの感覚と結びついているかを検討し、主として20世紀半ばから21世紀の現在に至るまで、文化的なテクストが形式上の刷新や実験、新たな主題群の導入を通してその時代の危機に応答してきたことを検証した。研究成果は学会発表や論文執筆によって複数の論考にまとめられた。最終的な研究成果は、単著『アメリカン・クライシス 危機の時代の物語のかたち』（松柏社）として2023年3月に刊行された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 ハーン小路恭子	4. 巻 2
2. 論文標題 湿地のエージェンシー、ぬかるみのフィクション ディーリア・オーウェンズ『ザリガニの鳴くところ』と人新世の物語	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『現代思想』2022年2月号 特集 = 家政学の思想	6. 最初と最後の頁 198-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Shoji Hearn	4. 巻 Volume 30. Issue 2
2. 論文標題 Violence, Storm, and the South in Beyonce's Lemonade	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 LIT: Literature Interpretation Theory	6. 最初と最後の頁 155-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10436928.2019.1597404	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ハーン小路恭子	4. 巻 21
2. 論文標題 「レベル・ガールの系譜 南部女性文学における反逆する娘像と連帯のナラティブ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『フォークナー』（日本ウィリアム・フォークナー協会機関誌）	6. 最初と最後の頁 141 - 155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 ハーン小路恭子
2. 発表標題 "We Must Dirty Ecology" -- Jesmyn Ward, Delia Owens と新時代の南部環境文学
3. 学会等名 アメリカ文学会第60回全国大会シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ハーン小路恭子
2. 発表標題 セイ・マイ・ネームーふたつの『キャンディマン』とインターセクショナリティ
3. 学会等名 東京大学吉国浩哉教授セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kyoko Shoji Hearn
2. 発表標題 Disability and Prosthetic Interdependency in How to Train Your Dragon
3. 学会等名 Association for Cultural Typhoon 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ハーン小路恭子
2. 発表標題 Jesmyn Ward, Sing, Unburied, Sing におけるダーティ・サウス・エコロジー
3. 学会等名 日本アメリカ文学会第60回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ハーン小路恭子
2. 発表標題 Rebel Girls, Long-legged Tomboys, and Juvenile Desperados: 南部女性文学における反逆する娘像と連帯のナラティブ
3. 学会等名 日本ウィリアム・フォークナー協会第21回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kyoko Shoji Hearn
2. 発表標題 "They stand as one": The Human-Dog Relationship in Salvage the Bones and Sing, Unburied, Sing
3. 学会等名 Faulkner and Ward Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 ハーン小路恭子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 松柏社	5. 総ページ数 200
3. 書名 『アメリカン・クライシス 危機の時代の物語のかたち』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------